

弘前八幡宮の唐門と本殿。  
↓唐門の手に拍犬が鎮座している



重要文化財

### 弘前八幡宮

八幡宮は、鼻和郡八幡村(弘前市)に鎮座していましたが、慶長17年(1612)、2代藩主津軽信枚が弘前城から見て北東の位置である現在地に遷宮し鬼門守護として弘前総鎮守の格式を得ました。唐門は、軒の唐破風や四隅の軽い反りなどの形態に特徴があり、加えて天井を小組格天井とするのも津軽地方の門としては珍しく、随所に桃山時代の作風が見られます。

●弘前八幡宮 ☎0172-32-8719



重要文化財

### 熊野奥照神社本殿

社伝によれば崇神天皇67年(紀元前31年)に勧請、その後何度か社殿の造営が行われています。現在の本殿は慶長18年(1613)に2代藩主津軽信枚が再建したもので、組物や懸魚(げぎょ)などの細部に桃山時代の様式が取り入れられています。

●熊野奥照神社 ☎0172-32-7663



赤穂藩の殿様は津軽に来にんにくにより、病状が好転したとされる。上はそのお礼に送られたとされる扁額。

鬼神社の  
にんにく市



弘前の  
小咄。

数多くの鬼伝説が残る鬼沢地区には鬼を祀る、その名も「鬼神社」があります。大祭には鬼の好物であるにんにくを商う市がち、「岩木種」という、球根が小さくピンク色を帯びた在来にんにくが販売されます。一般に流通していないため、独特な風味を好む根強いファンが集います。

県重宝

### 十一面観世音立像(袋宮寺)

津軽地方最大の近世彫刻である袋宮寺の十一面観世音立像は父の菩提を弔うため、4代藩主津軽信政の命により城内の老木で作ったと伝えられています。制作者は江戸を代表する仏師松雲元慶と伝承されています。

●報恩寺 ☎0172-33-1382



### 東照宮本殿

弘前東照宮は元和3年(1617)に弘前城本丸に勧請、寛永元年(1624)に現在の地へ遷されました。現在の本殿は寛永5年(1628)の建立です。全国的に見て早い時期に勧請できたのは2代藩主津軽信枚の正室・満天姫が家康の養女だったためと言われています。珍しい素木造りの東照宮です。

●弘前市文化財課 ☎0172-82-1642

重要文化財



幼い頃、遊び場だった神社仏閣の境内、  
大人になった今、そこは実に面白い。  
その土地が持つ歴史秘話を辿って、修学旅行をもう一度。

### 最勝院五重塔

津軽統一の際の戦死者供養塔として4代藩主津軽信政の代に建立されたといわれています。高さは31.2m、継ぎ手なしの杉の一本木を使用した心柱は屋根の上にもそびえ立つ相輪から初層天井までの全長25.4mで止められ、地震の揺れを吸収し、制御する構造になっています。初層の正面は連子窓、他の面を円形の窓にするなど窓や組物などの意匠に変化をもたせています。

●最勝院 ☎0172-34-1123

重要文化財



# 神社仏閣



### ヨミヤ

神社の大祭前夜祭である宵宮。津軽では「ヨミヤ」と呼び、夕方から夜にかけて参道には出店が立ち並び、お詣りする人々に賑わいます。神社の多い弘前ではヨミヤを告げる花火が5月中旬から8月にかけて頻りに打ち上げられます。

●弘前市立観光館 ☎0172-37-5501



革秀寺本堂



重要文化財

津軽為信霊屋(革秀寺)

### 革秀寺

#### 革秀寺・木造豊太閤坐像

廃藩まで堅く秘し、大切に守ってきた「木造豊太閤坐像」は豊臣秀吉が生前に彫らせた3体のうちのひとつで、石田三成に与えられたものが、後に三成の遺児を津軽で匿った際に持ち込まれたと言われています。城内の館神の稲荷神像の背後に隠していたと言われ、現在は津軽為信霊屋に安置されています。

全国的にも珍しい茅葺き屋根の本堂がある革秀寺は、藩祖津軽為信の追善のため2代藩主津軽信枚が創建。土壘と板塀に囲まれた津軽為信霊屋は創建時は質素なものでしたが、文化年間(1804~17)の大改修で彫刻や極彩色の華麗な塗装が施されました。霊屋には笏谷石(しゃくだにいし)の宝篋印塔(ほうきょういんとう)が安置されています。

●革秀寺 ☎0172-32-7460

### 津軽神楽

大祭は神を迎え、芸能などでもてなし、送り出すという神祭りの行事で、一部の神社では典雅な「津軽神楽」が奉納されます。津軽神楽は正徳2年(1712)に藤崎村(現在の藤崎町)の堰神社の神職が上京、伝習された神楽を社家に伝えて正徳4年(1714)の高岡霊社(現在の高照神社)の祭典に奉納したのが始まりです。以降、津軽地方の神職により伝承されています。

●津軽神楽保存会事務局 ☎090-3124-8813

県指定文化財



神楽「四家舞(しがのまい)」



神楽「磯良舞(いそらのまい)」→